

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 金沢大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人金沢大学 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 | |
|--------|--------------------|-----------|-----------------------|-------------|------|----|-------------|------|--|
| | | | 全学 共通科目 | 学部等 共通科目 | 専門科目 | 合計 | | | |
| 融合学域 | 先導学類 | 夜・通信 | 13 | 1 | 11 | 25 | 13 | | |
| | 観光デザイン学類 | 夜・通信 | | | 3 | 17 | 13 | | |
| 人間社会学域 | 人文学類 | 夜・通信 | | | | 37 | 50 | 13 | |
| | 法学類 | 夜・通信 | | | | 8 | 21 | 13 | |
| | 経済学類 | 夜・通信 | | | | 12 | 25 | 13 | |
| | 学校教育学類 共同教員養成課程 | 夜・通信 | | | | 1 | 14 | 13 | |
| | 地域創造学類 | 夜・通信 | | | | 16 | 29 | 13 | |
| | 国際学類 | 夜・通信 | | | | 8 | 21 | 13 | |
| 理工学域 | 数物科学類 | 夜・通信 | | | | 1 | 14 | 13 | |
| | 物質化学類 | 夜・通信 | | | | 2 | 15 | 13 | |
| | 機械工学類 | 夜・通信 | | | | 3 | 16 | 13 | |
| | フロンティア工学類 | 夜・通信 | | | | 4 | 17 | 13 | |
| | 電子情報通信学類 | 夜・通信 | | | | 2 | 15 | 13 | |
| | 地球社会基盤学類 | 夜・通信 | | | 10 | 23 | 13 | | |
| | 生命理工学類 | 夜・通信 | | | 7 | 20 | 13 | | |

| | | | | | | | |
|--------|-------|------|--|------|------|----|--|
| 医薬保健学域 | 医学類 | 夜・通信 | | 19 | 32 | 19 | |
| | 薬学類 | 夜・通信 | | 28.5 | 41.5 | 19 | |
| | 医薬科学類 | 夜・通信 | | 3 | 16 | 13 | |
| | 保健学類 | 夜・通信 | | 199 | 212 | 13 | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>
 金沢大学 Web サイト > 授業案内 (Web シラバス) > 開講学域を選択 → 「実務経験のある教員による授業」欄にチェック → 検索

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 金沢大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人金沢大学 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| 刊行物：金沢大学概要 (https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/outline) 金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 大学概要 大学 Web サイト：役員 (https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/administration/yakuin) 金沢大学 > 金沢大学について > 役員・組織・諸規程等 > 役員 |
|---|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|----------|--------------------------------------|--------------------------|--------------------|
| 常勤 | 独立行政法人日本学生支援機構グローバル人材育成本部グローバル人材育成部長 | 2022年4月1日 ～2024年3月31日 | 総務・財務・施設担当 |
| 非常勤 | 東北大学電気通信研究機構特任教授 | 2022年4月1日 ～2024年3月31日 | 産学連携・高等教育改革担当 |
| 非常勤 | 株式会社小松製作所顧問 | 2022年4月1日 ～2024年3月31日 | 産学連携・オープンイノベーション担当 |
| (備考) | | | |

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 金沢大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人金沢大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> | |
| <p>すべての学域等で共通</p> <p>授業計画の作成過程</p> <p>次年度時間割編成後に、当該授業担当教員が Web システムでデータを入稿する。その際、以下の項目は入力必須である。</p> <p>「授業の主題」、「授業の目標」、「学生の学修目標」、「授業概要」、「評価の方法と割合」、「授業時間外の学修に関する指示」、「オフィスアワー等」。</p> <p>入稿後、各学域等において全項目の内容を点検したうえで、WEB にて学内外に公開している。</p> <p>授業計画の作成・公表時期</p> <p>前年度 12 月末から Web システムで入稿を開始し、前年度 3 月 1 日に公開する (例：2022 年度のシラバスは 2022 年度の 3 月 1 日に公開した)。</p> | |
| <p>授業計画書の公表方法</p> | <p>Web サイト上で公表</p> <p>○金沢大学シラバス</p> <p>金沢大学 Top > Web 版シラバス (授業案内)</p> <p>https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> | |
| <p>すべての学域等で共通</p> <p>あらかじめシラバスで公開する「評価の方法と割合」に示す成績評価の方法・基準により、学修成果を厳格かつ適正に評価し単位を与えている。</p> <p>なお 2019 年度より、上記をより詳細なものとした「科目ルーブリック」を導入し、シラバスへの掲載を開始した。融合学域では、全科目のルーブリックを公表している。</p> | |
| <p>3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> | |

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

すべての学域等で共通

本学履修規程第 15 条で以下のとおり定めている。

学期ごとに算出し、学務情報サービスの学生成績閲覧ページにて掲載している。

GPA = (授業科目で得た GP × その授業科目の単位数) の総和 / (履修登録した授業科目の単位数の総和)

「評語：GP」 = 「S：4 点」「A：3 点」「B：2 点」「C：1 点」「合：対象外」

「不可：0 点」「否：対象外」「放棄：0 点」

「教育の質保証」の根幹をなす厳格・公正な成績評価のため、WEB 上（学内限定）で成績分布を公開し、教職員が参照できる仕組みが整っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

○金沢大学履修規程
金沢大学 > 金沢大学について > 役員・組織・諸規程等
> 諸規程等
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/kiteishu/act/frame/frame110000203.htm>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

すべての学域・学類の卒業の認定に関する方針を、以下の Web で集約・公表している。

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma>

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業の認定に必要な修得単位数については、以下の Web ページで集約・公表している。

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/570>

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 卒業要件

卒業の認定に関する
方針の公表方法

○学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma>
金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 金沢大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人金沢大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 財務に関する情報 |
| 収支計算書又は損益計算書 | Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 財務に関する情報 |
| 財産目録 | - |
| 事業報告書 | Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 財務に関する情報 |
| 監事による監査報告(書) | Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 財務に関する情報 |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|-------------------------------|
| 単年度計画(名称: _____) 対象年度: _____) |
| 公表方法: |
| 中長期計画(名称: _____) 対象年度: _____) |
| 公表方法: |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|--|
| 公表方法: Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/evaluation 金沢大学 > 金沢大学について > 大学運営・将来構想 > 自己点検評価/認証評価/その他の評価 |
|--|

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/evaluation>

金沢大学 > 金沢大学について > 大学運営・将来構想 > 自己点検評価／認証評価／
その他の評価

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|--|
| 学部等名 融合学域 |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトで公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/gakushi_2022.pdf 金沢大学 > 学域・学類・大学院等 > 学域学類制の特長</p> |
| <p>(概要) 広範な分野にわたる教養と文理融合の知見を醸成し、課題発見・解決の知を展開することで、地域と世界に貢献することを理念とし、知識基盤社会の中核的リーダーシップを発揮できるイノベーション人材を養成することを目的とします。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p> |
| <p>(概要) 先導学類 先導学類では、社会変革を先導するために必要となる多様な知見を身に付けた上で、その知見を活用した思考力・発想力・実践力を獲得します。その成果として、本学類が掲げる人材養成目標及び金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（学術）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会変革を先導するための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力 ・未来課題を理解し、ひと・もの・ことに関する多様な情報を収集・分析する力 ・課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力 ・語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力 ・事業創造などに高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力 <p>観光デザイン学類 観光デザイン学類では、社会変革を先導するために必要となる多様な知見を身に付けた上で、その知見を活用した思考力・発想力・実践力を獲得します。その成果として、本学類が掲げる人材養成目標及び金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（学術）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光価値をデザインするための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力 ・未来課題を理解し、ひと・もの・ことに関する多様な情報を収集・分析する力 ・課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力 ・語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力 ・価値創出等に高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/curriculum 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学習成果、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）</p> |

(概要)

先導学類

先導学類では、卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できるよう、課題発見・解決・展開モデル型の階層化した教育課程を編成します。

専門教育科目に以下の科目群を設けます。

- ・アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けた発想力と実践力を獲得するため、「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。
- ・社会変革に向けて必要となるイノベーションの根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するため、「コア科目」を設け、さらに3つのコアエリアに区分し、科目を配置する。
- ・未来課題の解決に資する知見を獲得するため、「学知科目」を設け、多様な分野の科目を配置する。
- ・国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得に向け、「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、グループワークを行う演習等を中心とした科目を配置する。
- ・修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うため、「確立科目」を設け、課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を行うための手法や理論をまとめる科目を配置する。

観光デザイン学類

観光デザイン学類では、卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できるよう、課題発見・解決・展開モデル型の階層化した教育課程を編成します。

専門教育科目に以下の科目群を設けます。

- ・アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けた発想力と実践力を獲得するために「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。
- ・知の飛躍に向けて必要となる観光学の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するために「基盤科目」を設け、科目を配置する。
- ・未来課題の解決に資する知見を獲得するために「学知科目」を設け、さらに3つのコアエリアに区分し、多様な分野の科目を配置する。
- ・国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、プロジェクト開発を行う演習等を中心とした科目を配置する。
- ・修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うために「確立科目」を設け、手法や理論を体系的にまとめる科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://examination.w3.kanazawa-u.ac.jp/admission/policy/>)

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

(概要)

先導学類

地球規模で急速に起こっている社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表出する複層的な諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付けた社会変革を先導する人材の育成を目指しています。

求める人材

- ・様々な分野の知識を学び、それらを統合して課題発見・解決を率先したい人
- ・多様な制度・慣習等に知的関心を有し、より良い未来社会づくりに貢献したい人

- ・最先端の学知を連携・融合し、社会変革に資する新たな創成に挑戦したい人

観光デザイン学類

地球規模で急速に起こっている社会の変容や価値の共感を的確に踏まえた上で、我が国の観光産業の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、Society 5.0 や新たな日常に対応し、多核連携型の国際観光立国を見据えた新たな観光価値をデザインする人材の育成を目指しています。

求める人材

- ・様々な分野の知識を学び、それらを統合して課題発見・解決を率先したい人
- ・多様な制度・慣習等に知的関心を有し、より良い未来社会づくりに貢献したい人
- ・最先端の学知を連携・融合し、観光に資する新たな価値創出に挑戦したい人

学部等名 人間社会学域

教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトにより

https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/gakushi_2022.pdf)

金沢大学>学域・学類・大学院等>学域学類制の特徴

(概要)

人間及び人間社会に関する普遍的真理の探求とともに、激変する複雑な社会状況の下で、人間及び人間社会が直面する諸問題の解決に 貢献寄与するための教育を行い、社会に貢献しうる自発的な課題探求能力や解決能力を持ち、かつ多文化共生時代にふさわしい理解力 と判断力を持った個性的な人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにより公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma>)

金沢大学>教育>教育情報>各種ポリシー>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

(概要)

人文学類

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。

法学類

法律学・政治学の学問体系の骨格を理解していること、法律学・政治学の基本的な科目の知識を修得していること、卒業後の進路に応じて必要な知識を修得していること、問題を発見する力と、自分の主張をまとめて論証する力を身につけていること。以上の法学類の人材養成目標とともに、各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に、学士（法学）の学位を授与する。

経済学類

以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士（経済学）の学位を授与する。

1. 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。
2. 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。
3. 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。
4. 高いコミュニケーション能力（外国語によるものも含む）、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。
5. 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることのできる人間性豊かな人材を養成する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。
 1. 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。
 2. 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
 3. 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
 4. 企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。
 5. 国際経済、国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
 6. 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
 7. さまざまな経済学説や理論を修得する。
 8. 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為の政策立案能力を養う。
 9. 将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。
10. 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。
11. さまざまな情報源（日本語以外で発信されているものも含む）から適切な情報を取捨選択し、有益に活用する能力を養う。
12. 社会人に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。

学校教育学類共同教員養成課程

学校現場の課題に応えられる実践的指導力のある教員を養成するために、次の知識・技能・態度を身に付けた者に学士（教育学）の学位を授与する。

- ① 教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性を持ち、自己研鑽を積む態度を身に付けている。
- ② 子どもへの教育的愛情と、教員としての使命感、責任感、倫理観を身に付けている。
- ③ 幼児期から児童・青年期における発達や特性を踏まえた児童・生徒への理解に関する知識を身に付けている。
- ④ 教科や教職に関する専門知識と技能を身に付けている。
- ⑤ 教育に関する理論と方法を活用し、教育実践を展開する基礎的能力を身に付けている。
- ⑥ 学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想することができる。

- ⑦ 学校における組織的な取り組みを理解し、学校関係者（保護者・地域住民・同僚教員・管理職など）と連携・協働する態度を身に付けている。

地域創造学類

| | | |
|-------|---|---|
| 知識・理解 | 人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を習得している。 | |
| | 理念目標・社会的責任 | 対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。 |
| | 現状理解・把握 | 対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。 |
| | 実践論・対処方法 | 対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。 |
| 技能・表現 | 調査・分析方法 | 地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を習得している。 |
| | 伝達技能 | 他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション力とコーディネーション力を身に付けている。 |
| 思考・判断 | 地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。 | |
| 関心・意欲 | 地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。 | |
| 態度 | 地域で暮らすすべての人に共感と尊敬をもって接することができる。 | |

国際学類

国際学類では、金沢大学グローバル・スタンダードに立脚しつつ、グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への深い洞察力、外国や異文化への高い関心と探求心、優れたコミュニケーション能力を持ち、国際的な場で活躍し、異文化との〈しなやかな共生〉を実現できる真の国際人を養成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材育成目標への到達を通じて、この学類の人材育成目標に到達した者に学士（国際学）の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにより公表
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/curriculum>
 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学習成果、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

（概要）

人文学類

ディプロマ・ポリシー（DP）にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。

1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえて、2年次以降も、学域GS言語科目や、各プログラムで提供される英語演習科目・英語講義科目を履修

し、また、英語履修プログラム「言語文化学」において、所属する主履修分野での所定の学修に加えて、言語を中心とする文化の固有性や多様性を英語によって学際的・分野横断的に学ぶことで、継続的に英語運用能力の向上を図る。

4. 専門科目は、講義系科目と演習系科目（プログラムによっては実験、実習、フィールド調査を含む少人数科目）に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っていく。
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

法学類

1. 体系的カリキュラム：法律学・政治学の学問体系の骨格に対する理解を促す。
2. 階層的カリキュラム：入学初年次は基礎的な科目を、学年の進行に従って応用的・発展的な科目を提供する。
3. 進路に応じたカリキュラム：1、2年次生はおおよそ同じ基本的科目を学ばせ、3、4年次生は将来の進路に即した科目を学ばせる。

経済学類

初年度には経済学を学ぶにあたっての基礎的なツールとなる「経済数学」や、経済学への興味関心を高めることを目的に配置した「総合講義」を履修して、2年次以降に本格化する専門科目の履修に備える。専門科目として開講される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができるが、共通フレームワークとしての位置づけを持つ科目を学類共通科目（13科目）として配置し、そこから5科目（10単位）を履修することが卒業要件となっている。なお、2年次から経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも6科目12単位修得することが卒業要件となっている。また、3年次から、各自が興味を持つ専門演習に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした特別研究（3年次）、卒業研究（4年次）の履修が可能である。

学校教育学類共同教員養成課程

本共同教員養成課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた知識・技能・態度を身に付けさせ、教員の養成を実現するため、以下に挙げる指針に基づいてカリキュラムを編成し運用する。

①自己確立した社会人としての教員を養成する学修

知性と良識を備え、自己の判断基準や価値基準に基づいて自律的に行動できる社会人としての教員を養成するため、幅広い基礎的な学識を提供し、仲間との交流を通じて思考力を涵養する科目を主として1年次に配置する。

②学校教育についての理解を深める学修

校種や教科などの個別領域の学びをより効果的にするために、教育制度の概要を

理解し、それぞれの学生が目指す校種や教科が教育課程上そのように位置づけられるのか、学校とは何か、子どもとは何かを、幅広い視野をもって考える科目を主として2年次に配置する。

③教員としての専門知識とその実践

学生がより現実的な教員像に到達できるように、1～2年次までに学んだことを土台にして、小学校や中学校などの校種独自の科目についての専門的な知識、その教授方法の修得、さらにはこれら二つを組み合わせさせた教育実践という三つの段階を効果的に学べる科目を主として3～4年次に配置する。

④現代的教育課題に挑戦する学修

これからの学校教育が必要とする新しい知識や技量の獲得に、的確に対応するための科目を先進的教育科目と総称し、各段階の学習過程に配置する。

⑤俯瞰して「比較」する視点を備えた教員を養成する学修

個人の力では解決が困難な教育問題に、同僚とともに取り組むときに必要な、自己と他者の意見を客観的に比較する態度や、自らの実践を言語化し説明する能力を養う科目を設定する一方で、義務教育全体を俯瞰し検討できるよう、複数の教員免許の取得が可能な科目配置を行う。

地域創造学類

必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。

1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

国際学類

国際学類では、金沢大学グローバル・スタンダードに立脚しつつ、グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への深い洞察力、外国や異文化への高い関心と探求心、優れたコミュニケーション能力を持ち、国際的な場で活躍し、異文化とのくしなやかな共生)を実現できる真の国際人を養成することを目指し、導入科目、専門基礎選択必修科目、専門選択必修科目及び選択科目を階層的に配置している。すなわち、必修科目(「国際学入門1、2」、「日本文化1、2」、「卒業論文」)10単位、専門基礎選択必修科目(国際社会系8単位、日本文化系8単位)、コース専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む28単位)など、少人数で行う演習などの課題探求型の自立的能動的学習科目(アクティブラーニング)と英語で開講されるE科目を中心に科目配置している。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:本学Webサイトにより公表)

<https://examination.w3.kanazawa-u.ac.jp/admission/policy/>

(概要)

人文学類

人文学類では、人間をその行動、思想、歴史、文化、言語、文学といった多彩な観点から考察し深く学ぶことを通じて、人間性と社会性に富む教養と課題発見能力、社会的応用性を備えた専門的知識、的確な自己表現の能力、そして多面的視野と柔軟なコミュニケーション能力を持った人材の育成を目指しています。

法学類

国内外の社会状況が大きく変化している現代において、法と政治に関する基本的な理念や知識は、個々人が他者と共生していくために不可欠なものとなっています。法学類では、このような認識に基づき、法学・政治学を体系的に学ぶことを通じて、現代社会が抱える諸問題を発見し、将来的課題に取り組む能力を有した人材を養成することを目標としています。

経済学類

経済学類では、多様な社会的課題に対応できる人材の育成を目指し、一般選抜に加えて、高校の専門教育を主とする学科又はそれと同等な総合学科からの進学希望者を対象とする KUGS 特別入試、及び超然特別入試・帰国生徒選抜・国際バカロレア入試・私費外国人留学生入試を設けています。経済分野に対する興味・関心と、勉学に対する強い意欲を持ち、基礎的資質に優れた人材を求めます。

学校教育学類共同教員養成課程

学校教育学類では、義務教育段階の諸学校の教師を養成することを目的としており、専門職としての教師を目指す熱意にあふれ、仲間と協力しながら専門的能力・技能を伸ばしていける人材を求めます。

地域創造学類

地域創造学類では、地域の自然、文化、住環境、人材、産業、社会関係などを専門的に分析把握し、自治を活かした地域固有のスタイルで、持続可能で質の高い個性ある地域を計画・設計・政策立案する能力を育成します。

国際学類

国際学類は、実践的な英語などの語学力を活用して、将来、外務・対外援助機関や国際機関で働きたい人、海外の NPO、NGO で経験を積みたい人、多国籍企業で力を試したい人、外国人に日本語・日本事情を教えたい人、国内での国際交流活動に携わりたい人などに必要な、多民族・多宗教・多文化共生社会を生き抜く強靱な知性と深い共感力、国際的な場におけるコミュニケーションに必要な外国語運用能力、具体的な問題提起と解決立案を行うセンスを養うことを教育目標としています。

学部等名 理工学域

教育研究上の目的（公表方法： Web サイトにより公表 ）

https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/gakushi_2022.pdf

金沢大学 > 学域・学類・大学院等 > 学域学類制の特長

（概要）

基礎科学と工学の先進的な研究を通して理工学の高度な専門知識を育み、高い倫理性と豊かな教養を備え、課題探求能力と国際感覚をも って自然環境と調和のとれた科学と技術の発展を目指し、人類の幸福 のため世界で活躍する個性輝く人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：Web サイトにより公表 ）

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma>

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

（概要）

数物科学類

急速な発展を遂げつつある新しい数学、物理学と関連諸分野の発展に貢献できる人

材を育成するとともに、論理的思考能力をもって物事を根本から考え、社会の様々な分野において未知の問題に果敢に挑戦できる人材を育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に、学士（理学）の学位を授与する。

物質化学類

化学の専門知識・技術とともに幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、科学・科学技術・文化の発展と充実に貢献できる人材を養成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士（理学）もしくは学士（工学）の学位を授与する。

機械工学類

産業技術の基盤となる機械工学分野の基礎学力と高度な専門知識を身につけ、自然や人間・社会との調和を図りつつ、モノづくり工学の持つ社会的使命と責任を果たす、工業・産業の広い分野で活躍できる機械技術者・研究開発者を養成する。学類の人材養成目標に到達するために、各コースにおいて所定の学修成果を達成した能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与する。

フロンティア工学類

本学類ではコース制は採用せず、学生は工学の専門分野の基礎を学ぶ4つのコアプログラムと、工学の異分野融合領域を学ぶ6つのフロンティアプログラムを組み合わせ、履修する。その課程において、金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS) 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

電子情報通信学類

金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS) に基づいた人材育成を行う上で、電気電子技術 (EET) と情報通信技術 (ICT) に関する専門知識を修め、技術者に必要な倫理観と地球的視点をもった、持続的発展可能で高度に情報化された未来社会の創造に貢献できる自立した技術者・研究者を養成する。金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS) 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

地球社会基盤学類

地球をとりまく自然現象に関する理解の深化に果敢に挑む冒険心、人間社会と自然とのより良い共生のあり方を模索し続ける探求心、魅力ある都市・環境づくりへのチャレンジ精神をもち、持てる知識全てを総合的に活かして、地球、環境、防災、都市、安全保障に関する調査・研究・開発ができる人材を育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた目標を通じて、学類の人材養成目標に到達した者に学士（理学または工学）の学位を授与する。

生命理工学類

生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけ持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士（工学もしくは理学）の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイトにより公表）

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/curriculum>

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学習成果、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

（概要）

数物科学類

初年度に履修する「微分積分学」と「線形代数学」を出発点とし、「集合と位相」、「群論・環論・体論」、「曲線論・曲面論・多様体論」や「実解析学・複素解析学・関数解析学・確率解析学」など、代数学・幾何学・解析学の専門分野について、純粋な数学的内容からそれらの応用までを体系的に学ぶ。最終学年では、少人数からなるいくつかのグループに分かれ、学生各自が関心を持つ専門分野を「数学課題研究」において、より深く探求する。なお、専門分野で開講される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。

物質化学類

化学の専門的職業人として必要な自然科学の素養として「基礎学力」を養う基礎科目群とともに、現代化学全般を体系的に習得する中で「化学的な研究能力と問題解決力」を養う専門科目群を配置した。また、「情報発信型人材育成」を目標として、ゼミナールや課題研究を中心としたプレゼンテーション能力及び国際コミュニケーション能力を養成する科目群を編成した。

機械工学類

機械工学分野の技術者として基礎となる科目について体系的に学び、その上でさらなる技術の高度化や人間・自然・社会との調和に対応できる機械工学の専門的能力を身につけられるよう科目を配置した。さらに、技術者としての実践能力を高めるための実験・実習科目と、自主性・創造性・協調性やプレゼンテーション能力、課題探求等を養成するための専門総合科目を4年間を通して開講するようにカリキュラムを編成した。

フロンティア工学類

近未来社会を先端科学技術で切り拓く人材を育成するために、工学の未踏領域（フロンティア）を分野境界の融合及び分野統合により開拓する素養を身につけるためのカリキュラムを編成した。コース制は採用せず、学生は履修科目を組み合わせた「プログラム」を、自身のキャリア設計に基づいて複数修得する。

電子情報通信学類

IoT、人工知能、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワークなどに関する情報通信工学分野において第4次産業革命及び超スマート社会を担う技術者、研究者やデータサイエンティストを養成するために、導入として専門知識の習得に必要な数理情報や自然科学などの基礎的な科目を専門基礎科目群として配置した。次に専門知識と理論の理解、そして実践的な技術の習得のために、IoT、人工知能、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワークなどに関する情報通信工学の専門科目として学類共通科目（専門）群とコース科目（情報通信）群を、及び、各分野に則した実験・演習科目として実践科目群を配置した。そして、それに続くより高度な実験・演習科目と課題研究として実践科目と総合科目を配置することで、問題発見・解決能力を身につけることができるように編成した。

地球社会基盤学類

「地球惑星科学コース」、「土木防災コース」、「環境都市コース」の3つのコース

では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、各コースに特化した専門的内容を理解するために必要となる幅広い専門基礎学力の涵養と多様な実験・分析方法、情報処理能力や調査の技能の習得を学習目標として、教育課程を編成し実施する。

生命理工学類

生命に関する審理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身に付けるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイトにより公表）

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/admission>

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

（概要）

数物科学類

科学の基礎分野における問題意識や基本原理を学び、様々な数理・自然現象を説明することができること、最先端の研究開発に応用可能な技術や問題解決能力を身につけること、コミュニケーション能力や表現能力、種々の自然現象を数学・物理の原理に基づいて分析し計算機の助けを借りて解析し、自ら課題を発見して論理的考察を行い、科学的実証により問題を解決することを重視します。

物質化学類

物質化学類では、現代社会の諸問題を解決できる創造力と技術力を身につけた優れた研究者・技術者を養成するためにプログラム制カリキュラムを採用しています。コアプログラムで基礎学力を修得後、主題ごとに体系化された6つのアドバンスプログラムから複数のプログラムを選択履修することで、化学の基本原理の探求と応用技術の創造に挑戦する力を身につけることができます。

“独創性や観察力など独自に考える力”をもち“未知の分野に対する強い探求心とチャレンジ精神”の旺盛な人の入学を期待します。

機械工学類

物理学・数学を駆使し、原子・分子レベルから、巨大構造までを対象とした最適設計法、超精密加工技術、新素材の開発など、未知の領域に挑む分野から、環境に配慮した新エネルギーやエンジンの開発など、自然の保護と持続に貢献する分野まで、広く興味を持つ人材の入学を期待します。

フロンティア工学類

ロボティクス、航空宇宙工学、高度センシング技術、ナノテクノロジー、新機能性材料など技術革命をもたらす先進的な分野から、医療福祉工学、生活支援機器、化学製品など生活や社会の調和と発展をささえる分野まで、広く興味を持つ人材を受け入れます。

電子情報通信学類

電気エネルギー創成・変換、ナノテクノロジー、光・電子デバイス、宇宙探査、セキュリティ、人工知能、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ、クラウドコンピューティングなどに興味がある人材の入学を期待しています。

地球社会基盤学類

地球惑星科学・環境科学や環境工学、土木工学、防災工学、都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識に基づく総合的・実践的な教育・研究を行い、地域からグローバルまでさまざまな局面において、社会をリードする研究者・技術者・教育者を養成します。科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を生かして活躍したいと考えている学修意欲のある人の入学を期待します。

生命理工学類

生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成します。本学類では、新分野を切り開く学術的探究心に富み、理学と工学の専門知識を活かして活躍したいと考えている学習意欲のある人の入学を期待します。

学部等名 医薬保健学域

教育研究上の目的（公表方法：Web サイト上で公表

https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/gakushi_2021.pdf

金沢大学 > 学域・学類・大学院等 > 学域学類制の特長

（概要）

医学類

早期体験実習(アーリー・エクスポージャー)、基礎配属での医学研究体験、コア・カリキュラム対応統合型教育、小人数チュートリアル教育、地域医療臨床実習及び診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)などを実施するとともに、全国共用試験 Computer-based Test(CBT)や客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination ; OSCE)で臨床前教育の充実を図り、幅広い教養、豊かな感性、人間への深い洞察力及び問題解決・コミュニケーション能力を備え、全人的医療ができる能力を身につける教育を行い、人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者を養成することを目的とする。

薬学類

薬学における基礎的及び専門的な知識・技術の修得はもとより、薬学が人間の生命に関わる学問であることを踏まえ、豊かな人間性と高い倫理観を兼ね備えた高度な専門職業人としての薬剤師を養成するとともに、次の世代の医療薬学教育研究者を養成することを目的とする。また、医療人としての倫理観を養い、医療の専門家としての健康と疾病に関わる基礎知識を修得するとともに、臨床現場における実践的な技能と態度、また薬物治療に起因する問題を同定・評価して解決する能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

医薬科学類

次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材を養成する。また、医学と薬学の基礎的知識、生命医科学領域／創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル並びに世界をリードする研究者に求められる研究マインド、

倫理観及び国際性を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

保健学類

保健学における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、豊かな人間性と高い倫理観を備えた高度な医療人としての看護師・保健師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士を養成するとともに、保健学の発展を担う教育研究者を養成する。また、医療人としての社会的使命感を涵養し、現代社会及び将来の保健・医療・福祉における諸課題を探求し解決できるような、総合的で学際的な保健学の能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma>

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー>学位授与方針（ディプロマポリシー）

医学類

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」である。 学士（医学）の学位を授与される学生は、以下の学修成果を上げた者とする。

学修到達目標

A. 知識及び技能

- ・ 基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。
- ・ 臨床医学領域について専門的な知識を身につける。
- ・ 診断及び治療の基本的技能を修得する。
- ・ 自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。

B. 研究心

- ・ 科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。
- ・ 探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。
- ・ 科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。

C. 倫理観

- ・ 患者の自己決定権の重要性を理解する。
- ・ 自分自身の行動を省察し律することができる。
- ・ 医師としての社会的責任を理解する。
- ・ 価値観の多様性を理解する。
- ・ 幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。

D. 地域医療

- ・ 地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。
- ・ 医療の経済的側面を理解する。

E. コミュニケーション

- ・ 患者・家族等と良好な関係を築く。
- ・ 他の医療従事者との連携を重視する。
- ・ 強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。
- ・ 英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。

F. 危険・事故の予防

- ・ 医療従事者の健康管理の重要性を理解している。
- ・ 医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。
- ・ 医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。

薬学類

KUGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（薬学）の学位を授与する。

○学修成果

- ①倫理・使命・責任を自覚する。
 - ・薬学高度専門人材が有すべき使命と責務を理解する。
 - ・生命の尊厳への深い認識を基盤とし医療、研究に関する高い使命感、責任感、倫理観をもつ。
- ②教育者・研究者レベルの薬の専門家を目指すために必須の基本的知識をもつ。
 - ・薬学基礎科目について基本的知識を幅広く有し、自然科学系の学問の相互関連性や重要性を理解している。
 - ・健康と疾病に関わる基礎知識を有し、これらに影響を及ぼす因子について理解している。
 - ・薬物の作用と治療に関する専門知識を有し、薬物治療に起因する問題を認識・評価できる。
 - ・薬の専門家として臨床現場における基本的な技能と態度を有する。
- ③専門知識に裏付けられた論理性と応用力をもつ。
 - ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。
 - ・専門的知識を活用した論理的考察に基づいて、基礎薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。
 - ・抽出された基礎薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す意欲とそれに取り組むための応用力をもつ。
 - ・自らの専門的能力を高めるために必要な自己研鑽を主体的に継続することができる。
- ④薬専門人として必要な表現力とコミュニケーション力を有する。
 - ・課題に対する背景、問題点、解決のための方法などに関する自身の考えを明確にまとめることができる。
 - ・適切な手段と資料を用いて自分の考えを他者に伝えることができる（プレゼンテーション力等）。
 - ・他者と論理的に議論することができる。
 - ・課題の解決に向けて他者と協力して対応することができる。
- ⑤将来の目標を設定し、それに必要な多様な専門性の基礎を身につけている。
 - ・薬学分野における活躍の場の多様性と、それに向けて修得すべき知識・技能を理解している。
 - ・広い視野で自身のキャリアプランを柔軟に立て、その実現に向けたキャリアパスの策定と努力をすることができる。

医薬科学類

医薬科学類では、養成する人材像（次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材）を踏まえ、所定の卒業要件を満たし、以下に掲げる生命医科学コースの学習成果を達成した者に学士（生命医科学）の学位を、創薬科学コースの学習成果を達成した者に学士（創薬科学）の学位をそれぞれ授与します。

【学習成果】

(1) 医学と薬学の基礎知識（両コース共通）

医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的知識を身につける。

医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。

(2) 基礎医学・生命医科学または基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル

(生命医科学コース)

基礎医学の専門的知識を身につける。

生命医科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。

基礎医学・生命医科学の特定領域の深い専門性を身につける。

主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発

展させることができる。

(創薬科学コース)

基礎薬学の専門的知識を身につける。

創薬科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。

基礎薬学・創薬科学の特定領域の深い専門性を身につける。

主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。

(3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性 (両コース共通)

専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。

論理的な思考力と表現力を身につけ、他者と論理的に議論できる。

生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。

国際的視野を有し、英語でコミュニケーションする基礎を身につける。

保健学類

保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。
4. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
5. 幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。
6. 英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。

以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。

【看護学専攻】

理念：

看護学の学問特性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材を育成する。

目標：

以下の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、対象となる人々、組織、地域への看護ができる
2. 高い倫理観と人間性を身につけ、医療人としての使命・責任を自覚し、看護が実践できる
3. 看護の専門性に基つき、保健医療チームの一員として連携と協働に貢献し、リー

ダーシップが発揮できる

4. 看護専門職者・社会人として、科学的・論理的思考で課題探求ができる
5. 人々の健康問題の解決・看護の発展をめざして、研究の基礎を身につけ役立てることができる
6. グローバル社会において多様な人々を理解し関係を築くためのコミュニケーションができる

【診療放射線技術学専攻】

- ・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。
- ・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。
- ・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜しまず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを目指す。

以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。

【検査技術科学専攻】

1. 臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を習得している。
2. さらに、学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて、専門技術者としての仕事の実際や、医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3. 研究室への配属を通じて、将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、指導者、研究者となるための基礎も身につけている。

以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。

【理学療法学専攻】

神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術学を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。

以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。

【作業療法学専攻】

1. 人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2. 作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3. 作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び、実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。

以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/curriculum>)

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学習成果、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

(概要)

医学類

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。

入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から医師としてのプロフェッショナリズムを惹起させるため、「医学入門」「早期医療体験Ⅰ・Ⅱ」等の医学の導入的カリキュラムを実施する。さらに、医学的課題の解決に取り組むために必要な科学的理論と方法論を理解し、生涯にわたる自己学習の能力および習慣を身に付けるため、課題探究型プログラム「基礎医学チュートリアル」等のアクティブラーニングによる学習法を取り入れる。

なお、世界的に活躍できる医療者・医学研究者の育成を図るため、夏季研修期間を中心として提供される「国際交流プログラム」や選択臨床実習で海外での実習体験等のカリキュラムも、全学年にわたり、各年次のレベルに合わせて取り入れていく。

2年次以降は、科学的根拠に基づく医療を行なえる能力を身に付けさせるため、基礎医学および臨床医学を関連付けた統合カリキュラムを実践する。同時に、医学研究を担うために適切な基礎となる知識、技能および態度を習得し、科学的探究心を涵養するため、「基礎研究室配属」、「医学研究特設プログラム」等を提供する。

4年次以降は、「基本的臨床手技実習」、「臨床医学チュートリアル」やケーススタディを通して実際の臨床に段階的に関わらせて患者中心の医療および保健活動を実践できる基盤を構築する。

以上の知識については、主に各科目で課す筆記試験や共用試験CBT注1で、技能については、共用試験OSCE注2で、態度については、早期医療体験（アーリーエクスポージャー）や基本的基礎配属（基礎研究室配属）での観察によって評価する。

共用試験CBT・OSCE合格後、実践的な臨床能力の習得のため、「診療参加型臨床実習」の機会を提供する。また、地域の医療に貢献する医師としての基礎を形成するため「地域医療実習」を用意し、医療行政を理解させる。

臨床における技能の評価は、6年次のPCC-OSCE注3で、知識の評価は、2回の統合臨床試験で、態度の評価は、臨床実習のポートフォリオ評価で行う。

注1:Computer Based Testing

注2:Objective Structured Clinical Examination

注3:Post Clinical Clerkship - Objective Structured Clinical Examination

薬学類

薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

(1) 体系的・階層的なカリキュラム：入学後1年間はKUGSに基づく共通教育科目と、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく専門教育科目の導入的・基礎的科目を履修し、薬学の基本的な学問体系を理解するための土台を築く。2年次には、基礎薬学を中心とした講義・演習科目を履修して薬学の基礎を固めるとともに、実習科目により基礎的な実験技術を身につける。3年次には応用薬学、4年次には医療薬学を中心とする科目を履修し、実務実習事前学習後、薬学共用試験合格を経て5年次に実務実習（計22週間）で臨床現場における実学としての医療薬学を学ぶ。並行して、3年次の第2クォーター（Q2）に研究室に配属され、6年次まで卒業研究・卒業演習に取り組み（実務実習期間を除く）、基礎研究を基盤とする課題探究能力や問題解決能力を涵養する。

(2) キャリアプランに応じたカリキュラム：「人材育成目標」に掲げる、①次代の薬学教育・薬学研究を担う大学教員／薬学研究者、②社会の急速な変化に対応して人類の健康増進や疾病予防・治療に貢献できる多様な薬学プロ人材、③高度

な臨床力と問題解決能力を身につけた主導的薬剤師、の3つの人材養成に向けて、1年次から3年次にかけて段階的にキャリア形成科目を受講し、自身の将来・進路について早期から考える機会を持つ。また、3～4年次には自身の将来の進路に応じた専門性を身につけられるように、開講される多様な科目から選択して受講する。

- (3) 早期からの研究マインド涵養と研究能力のステップアップ：1年次の研究マインド醸成科目において、研究への興味・関心を高めるとともに、研究者や研究活動に関する理解を深め、研究倫理についても学ぶ。また、1年次のGS言語科目、2年次前半の学域GS言語科目の履修を通して、英語による情報収集やコミュニケーションの基礎を学んだ後、専門教育の英語演習科目において英語での学術論文の作成や学会発表に関する基本的スキルを身につける。さらに、2～3年次の各分野の実習科目やラボローテーション、3年次第2クォーター(Q2)からの配属研究室における課題研究への取り組みにより、研究能力を段階的に身につける。

医薬科学類

医薬科学類では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果を達成するため、各々に対応する科目群を設定するとともに、医薬共通の基礎から各コースの深い専門性をシームレスに学べるよう、階層化した教育課程を編成し、実施します。

【科目群の概要】

学域GS科目：学域に共通した学びの核となる基礎科目

学域GS言語科目：学域に共通した学びの核となる基礎的な言語科目

専門基礎科目：医学と薬学の基礎的知識を修得するための科目

専門共通科目：世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性を修得するための科目

コース専門科目：各コースで研究を遂行するために必要な専門的知識を修得するための科目

課題研究科目：各コースで研究を遂行するために必要なスキルを修得するための科目

【教育課程の概要】

医薬科学類で養成する人材には、医学・薬学双方の基礎的知識を身につけ、医薬科学の基盤を形成した上で、“基礎医学・生命医科学”または“基礎薬学・創薬科学”に専門性を分化し、深化させるとともに、各分野の最先端の知識・スキルを身につけることが重要である。また、“先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開する”ために、入学後の早い時期から研究マインド・倫理観を醸成するとともに、国際的な感性・素養や語学力を身につけることも不可欠である。編成された教育課程は以下のとおりである。

- 1) 1年次における医薬科学基盤科目の履修
- 2) コース配属後の各コース専門科目とコース横断選択科目の履修
- 3) 早期から段階的に研究マインド・倫理観や国際性を醸成する科目の履修
- 4) 研究活動に必要な実験技術・知識・スキルを身につける科目の履修

保健学類

【看護学専攻】

<学習成果>

看護師課程カリキュラム

目標1：対象となる人を全人的に捉える実践能力を養う

目標2：ヒューマンケアの基本に関する実践能力を養う

目標3：根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を養う

- 目標 4：特定の健康問題に対応する実践能力を養う
- 目標 5：多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力を養う
- 目標 6：専門職として研鑽し続ける基本能力を養う

保健師課程カリキュラム

- 目標 1：地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力を養う
- 目標 2：個人・家族・集団・地域への継続的支援と協働する能力を養う
- 目標 3：地域の健康危機管理能力を養う
- 目標 4：地域の健康水準を高める事業化・施策化・社会資源開発・システム化能力を養う
- 目標 5：専門的自律と継続的な質の向上能力を養う

<教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）>

看護学専攻では看護師課程カリキュラム、保健師課程選択カリキュラムを置き、科目を構成している。

看護師課程カリキュラムでは、第1に看護の基盤を理解することから専門職としての研鑽への能力まで6つの目標からカリキュラムの主軸を構成している。第2に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと年次的に深化する科目の配置と教育方法を工夫している。第3にActive learning、Problem-based learningなどを用いて学生が系統的・主体的に学習できるように支援している。

保健師課程カリキュラムでは、5つの目標からカリキュラムを構成し、ヘルスプロモーションから困難事例まで様々な健康課題への理解から実践へと科目の配置と教育を工夫している。

【診療放射線技術学専攻】

<学習成果>

- 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。
- 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。
- 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。
- 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。
- 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。
- 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。
- 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。
- 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。

<教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）>

初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人

としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。

【検査技術科学専攻】

<学習成果>

- 目標A 科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。
- 目標B 人間の構造と機能を系統的に理解し、専門教育の基礎を築く。
- 目標C 医学検査の基礎として疾病との関連を理解し、専門教育の基礎を築く。
- 目標D 保健医療と福祉との関係性を学び、専門教育の基礎を築く。
- 目標E 医療工学・情報科学の基礎知識を学び、理解力、観察力、判断力を養い、専門教育の基礎を築く。
- 目標F 臨床病態学として各種疾病を系統的に学び、それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。
- 目標G 形態検査学として、病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。
- 目標H 生物化学分析検査学として、検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。
- 目標I 病因・生体防御検査学として、病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。
- 目標J 生理機能検査学として、臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。
- 目標K 検査総合管理学として、検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。
- 目標L 医療研究の手法を測定し、結果を集計し、それを発表し、論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。
- 目標M 臨地実習を経験して、講義、実習で修得した知識、技術を臨床レベルで対応できるように高める。

<教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）>

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし、「医療工学・情報科学」、「臨床病態学」、「形態検査学」、「生物化学分析検査学」、「病因・生体防御検査学」、「生理機能検査学」、「検査総合管理学」の専門科目について、基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは、少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ、学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において、より深く探求する。また、最終学年では臨地実習を経験し、臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお、専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが、各自の希望に応じて他専攻の科目、医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

【理学療法学専攻】

<学習成果>

- 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。
- 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。
- 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。
- 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。
- 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。
- 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。
- 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。
- 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。

<教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）>

共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療

法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。

【作業療法学専攻】

<学習成果>

正常な身体と発達を理解する。

- ・目標A 正常な人体の構造と機能を理解し、身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する。

- ・目標B 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する。

疾病・障害を理解する。

- ・目標C 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する。

地域における保健の役割を理解する。

- ・目標D 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する。

- ・目標E 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する。

作業療法の基礎を理解する。

- ・目標F 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する。

- ・目標G 基礎作業療法学の理念を理解する。

評価法を理解する。

- ・目標H 作業療法評価の概念を理解し、評価技術・技能を修得する。

疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する。

- ・目標I 作業治療学の基本的枠組みを理解する。

- ・目標J 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する。

- ・目標K 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する。

- ・目標L 地域ケア活動の基本的な概念、展開のための能力を修得する。

臨床的応用法を修得する。

- ・目標M 臨床的観察力・分析力、そして治療計画立案能力・実践力を身につける。

- ・目標N 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する。

初歩的な研究技能を学ぶ。

- ・目標O 研究の知識・技能を修得する。

<教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）>

作業療法士は人と接する職業であるため、幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために、医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として、解剖・生理学、運動学などを学び、その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて、リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて、作業療法専門科目が多くなるが、学外での評価学実習を組み入れて、学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し、作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/admission>)

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

(概要)

医学類

医学類は、本学における従来の医学部医学科に相当し、卒業者は医師国家試験の受験資格を与えられ、合格することによって医師としての資格を得る。その上で、医学類では、社会の変化に適応しつつ、多様かつ高度な医療ニーズに応え、プロフェSSIONALな医師として成長・発展することが期待できる人材を受け入れる。

●求める人材

明確な目的意識と強い使命感を有し、知識や技能の習得能力、論理的及び倫理的な思考力、協調性を有する人材を求めて選抜を行う。

なお、外国人留学生については、医師国家試験が日本で行われる関係上、相応の日本語能力を求める。

薬学類

薬学類は、人類が抱える健康や医療に関わる諸課題の解決に挑戦し、持続可能社会の実現に貢献する多様な「薬（くすり）専門人」の養成を基本理念とし、以下のような人材の養成を目指す。第一に、次代の薬学教育・薬学研究を担う、博士（薬学）の学位と薬剤師資格を併せ持つ「大学教員」、がん・生活習慣病・認知症・感染症等の主要疾患から難治性の希少疾患まで、革新的な医薬品の創出に取り組む「薬学研究者」等、薬学高度専門人材の養成を本学類の使命として特に重視する。第二に、超高齢社会、超過疎化、情報通信技術革新、国際化など、時代の急速な変化に対応して、人類の健康増進や疾病予防・治療に貢献できる多様な「薬学プロ人材」を養成する。第三に、薬学の知識のみならず多角的な知識・経験に基づいて物事を俯瞰でき、問題解決能力を身に付けた「主導的薬剤師」を養成する。

一般選抜の入学者は、基礎・専門科目やキャリア形成科目群の学修を通して、自らの適性と使命を見極めた上で進路を決定していく教育システムを取っているが、中でも本学では大学院博士課程（4年制）への進学を強く推奨する。薬学類・高大院接続入試の入学者には、大学院博士課程修了までの一貫した教育を導入している。

●求める人材／薬学類共通

- ・十分な基礎学力を備えている人
- ・健康や医療に関する諸課題に挑戦し、持続可能社会の実現に貢献したい人
- ・国内外の大学において、健康増進や医療の進歩につながる学術研究を推進するとともに、次代の薬学教育を担う大学教員を目指す人
- ・国内外の研究機関において、革新的医薬品の創出に資する先進的な基礎研究に携わる薬学研究者を目指す人
- ・薬剤師資格を持ち、他の専門性も身に付けた「薬学プロ人材」として、国内外の幅広い健康・医療分野で活躍することを目指す人
- ・医療現場で医師、看護師等の他職種の医療従事者と連携しながら、薬剤師を統率する主導的薬剤師（基幹病院の薬剤部長等）を目指す人

求める人材／薬学類・高大院接続入試

- ・上記に加えて、薬学や健康・医療に関連する分野を深く主体的に学ぶことに意欲が高く、大学院医薬保健学総合研究科・薬学専攻博士課程（4年制）まで進学し、将来、国公立・私立大学の薬学関連の教員・研究者として、世界をリードする最先端研究を行いながら、次代の人材育成に積極的に取り組むことを目指す人

医薬科学類

「医薬科学類」は、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる

先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開できる高度な研究基盤力を備えた研究者人材の養成を基本理念とします。本学類には、生命医科学と創薬科学の2つのコースがあり、1年次に医学と薬学の基礎的科目を共通に修得した後、コースに分かれて各専門性を深化させ、大学院博士前期・後期課程に進学して、医学・薬学の幅広い視点といずれかの深い専門性を併せ持つ特色ある研究者人材の養成を目指します。「生命医科学コース」では、薬学の基礎的知識も備えた、基礎医学・生命医科学領域を専門とする研究者を、「創薬科学コース」では、医学の基礎的知識も備えた、基礎薬学・創薬科学領域を専門とする研究者を養成します。各コースへの配属は、2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。本学類では、以下に示す人材を広く求め、特に少数精鋭の特徴的な医薬科学教育を受けて、将来、世界の最先端医療や医薬品の研究・開発をリードする意欲を持つ人の入学を期待します。

●求める人材

- ・十分な基礎学力を備えている人
- ・基礎医学及び基礎薬学を広く学び、生命医科学や創薬科学の発展に興味を持つ研究心旺盛な人
- ・将来、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる研究成果を挙げて社会に貢献したい人

保健学類

保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とします。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成です。

保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、診療放射線技術学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設けます。

【看護学専攻】

看護学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、人々が、グローバル化する社会、多様な環境に適応しながら健康的に質の高い生活を送ることを支援する学問です。看護学専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習します。さらに、学内及び学外の医療、保健及び福祉現場での実習を通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの一員としての責任を学びます。また、研究やゼミを通し、将来の看護科学を担う者として幅広い科学的知識、問題解決方法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、看護実践力のある指導者、教育者、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、看護師、※保健師の国家試験受験資格を取得することができます。

※保健師課程は、選択制です。保健師として将来就職を希望する学生（最大40名）で、所定の科目を履修し、その単位を修得した者のみが、卒業時に「保健師国家試験受験資格」を取得できます。

【診療放射線技術学専攻】

診療放射線技術学は、放射線、磁気、超音波を使用した医療機器の原理や特性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機能並びに医薬品に対する生物学的な特性などを修得する学問です。診療放射線技師となるために必要な専門技術

を修得するとともに、医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養います。また、研究室配属を通じて、将来の診療放射線技術学を担う課題探求能力や、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、診療放射線技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【検査技術科学専攻】

検査技術科学は、主に病気の診断や治療効果判定に対して重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問です。本専攻では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者としての役割を学びます。また、研究室配属を通じて、進歩する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得する能力を養います。卒業時には臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【理学療法学専攻】

理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野です。種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼吸器などに損傷や障がいをもたらした人に対して、運動療法や物理療法を駆使して治療に当たります。理学療法学専攻では、理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践的に修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成します。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

【作業療法学専攻】

作業療法士として必要な知識、技術、コミュニケーション能力を修得し、専門職としての能力を高め、研究する態度をもつ人材を養成します。本学の作業療法教育は脳機能解析学や運動器障がいをはじめ、生活能力回復学の領域において幅広い分野の専門教員の下に行われています。作業療法の技術科学を修得し、研究を進め、技術を開発し、社会に役立ちたい人の入学を希望します。卒業時には、作業療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

●求める人材

【看護学専攻】

- ・ 看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・ 病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・ 人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献したいと強く願う人
- ・ 保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【診療放射線技術学専攻】

- ・ 診療放射線技師として保健医療を支えることができる有能な人
- ・ 高度先進医療に対応し常に努力することができる人
- ・ 専門的な知識を習得するのみならず研究・思考することができる人
- ・ 患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を持つ人

【検査技術科学専攻】

- ・ 病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高めて、社会に貢献する情熱を持つ人
- ・ 医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・ 臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【理学療法学専攻】

- ・ 豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人
- ・ 社会のニーズに応え、努力を惜しまない人
- ・ 理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人

【作業療法学専攻】

- ・ たゆまず努力して、自分の能力を高めようとする人
- ・ 専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・ 病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・ 人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させたい人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku>

金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|---|--------|---|-----|-----|-----|-----------|------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 9人 | — | | | | | 9人 |
| 融合学域 | — | 12人 | 8人 | 1人 | 4人 | 0人 | 25人 |
| 人間社会学域 （教員養成以外） | — | 76人 | 47人 | 17人 | 2人 | 2人 | 144人 |
| 人間社会学域 （教員養成） | — | 26人 | 22人 | 2人 | 0人 | 0人 | 50人 |
| 理工学域 | — | 87人 | 84人 | 6人 | 49人 | 0人 | 226人 |
| 医薬保健学域 （医学系） | — | 36人 | 30人 | 5人 | 41人 | 0人 | 112人 |
| 医薬保健学域 （薬学系6年） | — | 9人 | 11人 | 0人 | 17人 | 0人 | 37人 |
| 医薬保健学域 （薬学系4年） | — | 3人 | 3人 | 2人 | 2人 | 0人 | 10人 |
| 医薬保健学域 （その他） | — | 32人 | 22人 | 0人 | 30人 | 0人 | 84人 |
| 教養部 （一般教育） | — | 13人 | 21人 | 9人 | 9人 | 0人 | 52人 |
| 大学院 | — | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 附属病院 | — | 3人 | 10人 | 27人 | 83人 | 0人 | 123人 |
| 附属研究所 | — | 31人 | 20人 | 0人 | 26人 | 0人 | 77人 |
| その他 | — | 27人 | 31人 | 1人 | 18人 | 0人 | 77人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | 計 | |
| 0人 | | 383人 | | | | 383人 | |
| 各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等） | | 公表方法： https://ridb.kanazawa-u.ac.jp/public/index.php | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/fd | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|-------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| 融合学域 | 70人 | 67人 | 95.7% | 125人 | 124人 | 99.2% | — | — |
| 人間社会学域 | 673人 | 622人 | 92.4% | 2,831人 | 2,973人 | 105.0% | 10人 | 9人 |
| 理工学域 | 599人 | 551人 | 92.0% | 2,506人 | 2,582人 | 103.0% | 40人 | 48人 |
| 医薬保健学域 医学類（6年） | 112人 | 111人 | 99.1% | 697人 | 720人 | 103.3% | 5人 | 5人 |
| 医薬保健学域 薬学類（6年） | 65人 | 63人 | 96.9% | 270人 | 241人 | 89.3% | — | — |

| | | | | | | | | |
|--|--------|--------|--------|--------|-------|--------|-----|-----|
| 医薬保健学域 医薬科学類 (4年) | 18人 | 19人 | 105.6% | 36人 | 35人 | 97.2% | - | - |
| 医薬保健学域 保健学類(4年) | 189人 | 188人 | 99.5% | 838人 | 812人 | 96.9% | 30人 | 17人 |
| 医薬保健学域 薬学類・創薬 科学類(経過 選択による一 括入試(募集 停止)) | - | - | - | - | 77人 | - | - | - |
| 医薬保健学域 創薬科学類 (募集停止) | - | - | - | 80人 | 44人 | 55.0% | - | - |
| 総合教育部 (国際基幹教 育院) | - | 148人 | - | - | 149人 | - | - | - |
| 合計 | 1,726人 | 1,769人 | 102.5% | 7,383人 | 7757人 | 105.1% | 85人 | 79人 |
| (備考) | | | | | | | | |

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | | | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|---|------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----|
| | | 進学者数 | 進学者数 | 進学者数 | | |
| 人間社会学域 | 777人 (100%) | 45人 (5.8%) | 677人 (87.1%) | 55人 (7.1%) | | |
| 理工学域 | 623人 (100%) | 432人 (69.3%) | 170人 (27.3%) | 21人 (3.4%) | | |
| 医薬保健学域 | 395人 (100%) | 92人 (23.3%) | 185人 (46.8%) | 118人 (29.9%) | | |
| 合計 | 1,795人 (100%) | 569人 (31.7%) | 1,032人 (57.5%) | 194人 (10.8%) | | |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) 金沢大学大学院、名古屋大学大学院、京都大学大学院、NTTドコモ、小松製作所、双日、東京海上日動火災保険、YKK、総務省、金沢大学附属病院 | | | | | | |
| (備考) | | | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|--|-------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| 合計 | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (備考) | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>次年度時間割編成後に、当該授業担当教員が Web システムでデータを入稿する。その際、以下の項目が入力必須である。</p> <p>「授業の主題」、「授業の目標」、「学生の学修目標」、「授業概要」、「評価の方法と割合」、「授業時間外の学修に関する指示」、「オフィスアワー等」。</p> <p>入稿後、各学域において全項目の内容を点検したうえで、WEB にて学内外に公開している。</p> <p>授業計画の作成・公表時期</p> <p>前年度 12 月末から Web システムで入稿を開始し、前年度 3 月 1 日に公開する (例：2022 年度のシラバスは 2021 年度の 3 月 1 日に公開した)。金沢大学シラバス https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx 金沢大学 > Web 版シラバス (授業案内)</p> |
|--|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>すべての学域等で共通</p> <p>本学履修規程第 15 条で以下のとおり定めている。</p> <p>学期ごとに算出し、学務情報サービスの学生成績閲覧ページにて掲載している。</p> <p>$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$</p> <p>「評語：GP」 = 「S：4 点」「A：3 点」「B：2 点」「C：1 点」「合：対象外」 「不可：0 点」「否：対象外」「放棄：0 点」</p> <p>「教育の質保証」の根幹をなす厳格・公正な成績評価のため、WEB 上（学内限定）で成績分布を公開し、教職員が参照できる仕組みが整っている。</p> <p>また、全学域の「①卒業の認定に関する方針」及び「②必要な修得単位数」を、以下の Web ページで集約・公開している。</p> <p>①https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)</p> <p>②https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/570 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 卒業要件</p> |
|--|

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる 単位数 | G P A制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
|----------------------------|-----|-----------------|------------------------|-----------------------|
| ②URL 参照 | | 単位 | 有・無 | 単位 |
| | | 単位 | 有・無 | 単位 |
| G P Aの活用状況 (任意記載事項) | | 公表方法 : | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法 : | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|--|
| <p>公表方法 : Web サイト上で公表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「金沢大学概要」 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/outline ・ 金沢大学大学案内 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/daigakuannai ・ データで見る金沢大学 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/data ・ 金沢大学キャンパス見どころガイド https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/navi |
|--|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|----------------|------|-------------|-----------|-----|-------------|
| 全学域及び 総合教育部 | 全学類等 | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/gyoumu/payment>

金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 業務に関する情報 > 学生納付金等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|---|
| <p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>奨学金については、日本学生支援機構奨学金、民間奨学団体及び地方公共団体を扱っている。また、修学支援新制度の対象外となる学生については、申請により審査の上、授業料を半額免除にする減免制度を設けている。</p> <p>健康管理支援のため、本学に保健管理センターを設置している。各地区の在学者に対応するため、分室を設け健康管理を行うとともにメンタルヘルスに関する相談にも対応している。</p> <p>生活支援のため、福利厚生施設を各キャンパスに設け、食事の提供や教育に必要な雑貨の販売を実施している。</p> <p>住環境支援のため本学には学生寮2棟（令和5年3月31日で閉寮）と学生留学生宿舎を設置している。学生寮は、金沢市内に鉄筋コンクリート4階建の男子寮と女子寮である。学生留学生宿舎は、角間地区キャンパス内にあり、日本人学生と外国人留学生が共同生活するシェアハウス型の学生寄宿舎となっている。</p> <p>健康管理 http://hsc.w3.kanazawa-u.ac.jp/ 金沢大学 > 附属施設 > その他の附属施設等</p> <p>生活支援 http://www.kindai-coop.jp/shop/index.html 金沢大学 > 学生生活 > 生活支援</p> <p>学生寮・学生寄宿舎 https://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/livelihood/residence 金沢大学 > 学生生活 > 生活支援 > 住居（学生寄宿舎）</p> |
| <p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>各学域では、アドバイス教員制度を設けて進路指導を実施し、大学院への進学指導を行うとともに、キャリア支援室とアドバイス教員、就職担当教員等が連携してキャリア支援・進路相談・就職指導にあたっている。</p> <p>キャリア支援室では、キャリア形成・就職活動にタイムリーに対応したガイダンス等の開催をはじめ、求人情報や本学出身在職者情報の提供、就職関連書籍の貸出、キャリア相談員による進路・就職相談、エントリーシートの添削、面接練習を行い、学生が主体的にキャリア形成、進路選択及び就職活動ができるよう支援している。</p> |
| <p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、すべての学生が、いかなる差異、いかなる困難にもかかわらず、できる限り等しい条件の下で教育の果実に与ることができるよう、経済的支援、自律的生活の支援、社会的責任の自覚の涵養などを含めた包括的な学生支援を行うことを目的とし、「金沢大</p> |

学 KUGS サポートネットワーク」を設置している。

「金沢大学 KUGS サポートネットワーク」では、各部局、相談窓口及び支援組織が連携し、学修支援、キャリア形成支援、ヘルスケア支援、障がい学生支援、性的マイノリティ支援等の各種支援を行う。

また、気軽に学生が相談できるように学生ボランティア及び教員が対応にあたる「なんでも相談室」や保健管理センターのカウンセラーの相談を受けられる体制を整備している。

URL : <https://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/consultation>

金沢大学 > 学生生活 > 学生相談窓口

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku>

金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------|---------------|
| 学校コード | F117110105393 |
| 学校名 | 金沢大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人金沢大学 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|------|------|------|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 463人 | 457人 | 524人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 238人 | 249人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 131人 | 135人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 94人 | 73人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 18人 |
| 合計（年間） | | | | 542人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | - | | |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下) | - | | |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | - | | |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 19人 | | |
| 計 | 27人 | | |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|---|-----|--|-----|
| 年間 | 0人 | 前半期 | | 後半期 |
| | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | - |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | - |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下) | 0人 | | |
| GPA等が下位4分の1 | 51人 | | |
| 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況 | - | | |
| 計 | 51人 | | |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。